創立60周年を迎えました

1951年（昭和31年）6月1日に開院した同和会千葉病院は、本年6月で創立60周年を迎えました。
このことは、歴代の職員・関係者、そして、当院を支えてくださった地域の皆様のおかげと存じます。

創立当時（昭31年）の航空写真。中央上部が当院、右から下に斜めに走るのが成田街道で、中央に広がる建物群が現在の前原公団。
（国土地理院発行地図より）

創立当時の当院全景

病床数64床、職員22名で開院した昭和31年当時、船橋市の人口もまだ11万7千人程度で、当院の周囲も（当時の航空写真をみると）田畑に囲まれておりました。
その後、地域の開発拡張、人口増加、医療ニーズの拡充に伴い、病院も成長してまいりました。
当時まだ一般的であった鉄格子を外し、開放病棟の拡大を推進、昭和48年には、全国の精神科病院に先駆けて開放率80%を成し遂げております。
それらは言うまでもなく、地域の皆様の、精神科医療に対するご理解と、支援の賜物でした。
今後も、地域に根付いた医療機関として、良質な医療を提供できるよう、職員一同努力してまいります。

～　最善の行動と信頼　～

医療法人 同 和 会　千　葉　病　院

【病院概要】

■ 診　　療　　科
　精神科・神経科・歯科（要予約）
■ 院　　長
　小松　尚也
■ 外 来 診 療 時 間
　平　日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）
　土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
■ 休　　診　　日
　木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
■ 所　　在　　地
　〒274-0822　千葉県船橋市飯山満町2-508
　TEL：047-466-2176　FAX：047-466-7503
　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：//www.chiba-hp.on.arena.ne.jp
■ 千葉県認知症疾患医療センター
　TEL：047-496-2255　FAX：047-496-2256

千葉病院　患者様の権利
①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申したてることができます。
④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
⑥個人情報は保護されます。

編集後記
千葉病院は本年で創立60周年を迎えました。
本文にもありますが、これまで、職員関係者や患者様、そして地域の皆様に支えていただき、迎えることができた60周年だと考えております。
今後も、地域医療の充実に寄与すべく、さまざまな実践を紹介してまいりますので、宜しくお願いいたします。

発　行：医療法人同和会　千葉病院
発行日：平成28年8月1日
住　所：千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL　047-466-2176　Fax　047-466-7503
URL://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

千葉病院Ｄｒによる医療コラム　第23回

ういんぐ　＝WING＝

千葉病院広報紙　2016. 盛夏号（第54号）発行者 医療法人同和会 千葉病院

盆おどりのご案内

千葉病院恒例のイベント、盆踊りを今年も開催します。
納涼にはまだ遠い猛暑の時期ですが、ちょっと涼しくなったタ暮れ時に、焼きそば・ミニゲーム・太鼓の演奏などの催し物を計画しておりますので、是非、ご参加下さい。

日時：８月３日（水）　18時より
会場：同和会千葉病院　お祭り広場

※雨天の場合、会場が屋内に変更となります

近隣の皆様には、音楽などでご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください

ここは千葉病院の活動を紹介するコーナーです

向精神病薬の副作用　その3

千葉病院医師　伊藤　順子

今回は「口渇」「水中毒」について説明いたします。

口が渇くという症状は唾液の分泌が悪いために起こります。

唾液の分泌は副交感神経によってコントロールされていて、抗精神病薬の中にはこの副交感神経の働きを抑えるものがあり、そのために唾液が出にくくなってしまう場合があります。対処としては、水分を十分にとる、飴をなめる、ガムをかむ、うがいをするなどの工夫で軽減できます。

水中毒とは、水分を飲みすぎることによって血液が薄まり、電解質のバランスが崩れ、脳浮腫（脳がむくむ状態）を起こす状態をいいます。最初のうちはイライラしたり気分が悪くなったりしますが、そのうち体がふらふらしたり、意識がもうろうとしたり、さらに進むとけいれんが起きて意識がなくなるなどの症状が現れます。この状態が続いてしまうと、何日も昏睡状態になったり、吐いたものを誤嚥して呼吸が出来なくなったりして、中には亡くなってしまう方もいます。そのため早めに気付き対処することが大事です。

水分を飲みすぎていないかどうかをチェックする方法は、体重を一日に何回か測ることです。1日のうちで5kg以上変化する場合には水分を飲みすぎている場合が多く、水中毒の危険性が高くなります。また、いつもより機嫌が悪い、トイレに何度も行って大量のおしっこをする、時々吐くなどの症状があれば、早めに受診して血液検査をすることをお勧めします。治療は水分制限（1日1リットル以内）と塩分の補正です。

今までの記事を読んでわからないことや思い当たることがありましたら主治医に相談してみてください。よろしくお願いいたします。

当院から地域へ　地域から当院へ

「ふぇにっくす」は、患者さんたちによる自助活動の場として1976年に建てられた施設です。このたび、そのふぇにっくすを使って、地域の方々の交流の場を設けるイベント「はさまオレンジカフェ」」が開催されました。

7月21日（木）13時30分～16時に、当院の患者さんが運営する喫茶店「ふぇにっくす」をお借りして、認知症カフェ「はさまオレンジカフェ」を開きました。

対象は認知症当事者の方、ご家族の方、認知症に興味のある地域の方、支援者の方などで、気軽に立ち寄っていただき、少人数でお茶とお菓子を楽しみながら交流し、情報交換を行える場となっています。時間内は出入り自由です。
今回は初回ということでまだ周知もされておらず、来て下さる方がいらっしゃるかどうか、我々スタッフもドキドキしながらコーヒーやお菓子を用意してお待ちしていました。
幸い、認知症当事者の方やご家族の方、地域の方など6名が参加され、和やかな会となりました。
介護保険サービスを利用しながらご自宅で生活しておられる方、これから医療やサービスを導入しようと思いその第1歩としてカフェに参加された方、まだ認知症ではないが他人事ではないと思っている方、など様々な方のお話が出て、参加者もスタッフも、有意義なひと時を送ることができました。
このカフェは、今後も奇数月の第3木曜日に開催予定です。参加費は飲み物とケーキ付きで300円です。興味のある方はぜひお立ち寄りください。

認知症疾患医療センター

センター長（病院長）　小松尚也

平成26年10月より、同和会千葉病院に、認知症疾患医療センターが併設されました。
「認知症疾患医療センター」とは、地域における認知症の専門医療期間として、早期発見、診断・治療、またかかりつけ医や介護施設との連携の中心となる施設のことです。
千葉県内では医療圏域ごとに開設されており、千葉病院は、心和会八千代病（八千代市）院とともに、東葛南部地区（船橋市・八千代市・市川市など）の認知症疾患医療センターとして開設・運営しております
今回からの連載では、当院における認知症疾患医療センターの活動について報告してまいります。
第1回目は、センター長でもある小松尚也院長より、センターの概要について御紹介いたします。

医療法人同和会千葉病院は、千葉県の認可を受け、東葛南部圏域における認知症疾患医療センターとしての活動を、平成26年10月1日より開始しました。
ただいま1年半を経過しておりますが、この間に、様々なことを経験させていただきました。

日々の活動として電話相談、また外来診察を診療日はほぼ毎日受けています。この間の電話相談は、397件（平成26年10月から平成27年12月まで）、また外来受診件数は257件（同期間）に達しています。
当院の外来があいている日は、ほぼ毎日認知症の新患の方がいらしている、といっても過言ではありません。

ここで強調しておきたいことは、当院が精神科の病院だからといって、精神的なお悩みがある患者さんのみ受け付けているわけではない、ということです。

一口に認知症といっても、様々なタイプがあります。物忘れだけの方、不眠が伴う方、幻覚などもある方、歩行が困難になる方、あと行動がおかしくなる方、様々です。

それらの方々の多くに共通しているのは、それらの症状のせいで、生活が不自由になってきていることです。
生活リズムが乱れたり、家の中の片づけがうまくいかなくなりゴミがたまったり、また冷蔵庫に同じものが詰め込んであったり、と様々です。

私どもの役割は、そのような不自由さをうまく解決する仕方を一緒に考えてゆくことだと思います。

医療的なことはもちろん医師が担当しますし、それ以外に、生活面の不自由さに関しては、ケースワーカー（当院では精神保健福祉士兼任）が担当いたします。必要に応じて看護士が相談に乗る場合もあります。

もちろん自分が認知症ではないか、と心配する方も遠慮なくいらしてください。
大切なことは放置しないことです。